

『杜子春』は芥川賞で有名な芥川龍之介二十八歳の頃の作品である。

小説というのは「目で読む場合」と「耳で聴く場合」が同じであつてはよろしくない。なぜかおわかりか？

聴く場合は、音のひびきというものがあつて、小説に「書かれたとおり」朗読すると少し回りくどくなる。



名画

そこで私は『杜子春』

を三〇分用の朗読用に脚色短縮してCDを作つてみた。

◇ ◇

ただ聴くだけではおもしろくないと思い、加藤孝造先生にさし絵をお願いした。

加藤先生は陶芸家で「人間国宝」であるが絵も達者で若い時に日展に入選された腕前である。

私が多治見ロータリークラブ例会でプロジェクターを使って絵を映し朗読したところ好評で

あつた。

そのようすをビデオにとつてユーチューブに入れた。

最初の部分が少し欠

けているが、素人の手作りには、なかなか

弁護士日記

杜子春

美和 勇夫

せん

三十分きいて、見ていただいで損はさせません。

◇ ◇

近頃は杜子春の物語を知らない人が多い。

かの作品となつた。

★パソコンで「杜子春

弁護士 美和勇夫」

と入力してもらうと出てまいります。

スマホでも出ます。(マ

ナーモードでは音が出ま

観、社会のルールなど

を自主的に学ばせ、育むことができるようにすることを支援する為の岐阜県の条例だそうである。

◇ ◇

そういうことが目的であるならば、さだめし『杜子春』などはかつこうの題材となろう。

〈あらずじ〉

中国は唐、洛陽の都にある西の門。

親の財産をすっかり使

いはたした杜子春という

若者がいた。

そこへ不思議な仙人が

あらわれて杜子春を大金

持ちにくれた。

しかし浪費ぐせは直らず無一文になり、今度は

「仙人の修行をしたい」と訴える。

仙人は杜子春を峨眉山

の岩にすわらせ「どんなことがおきても決して声を出すな」と命じる。

えんま大王があらわれて、地獄の畜生道におちた杜子春の両親をひきつ

れてきてムチでたたきのめす。

母親はそれでも杜子春

に「だまっていいよ」と言う。

さて、杜子春は…どう

するか？

なかなかアジのある物語である。